

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2021年3・4月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第619号

日本におけるアカデミー運動が開始されてからすでに60年が経過した。現在の日本クリスチャン・アカデミーのホームページには、その理念がこのように掲げられている。「アカデミーは、社会と人々の持つさまざまな価値の多様性を尊重しながら、正義と平和、いのちが尊ばれる社会の実現を目指す運動である」この理念が60年前から提示されていたのか、それとも後に整えられたのかは辿ることができなかったが、現代におけるキリスト教運動が究極的に目指すべき地平が見事に言葉化されている。中でも、「正義、平和、いのちが尊ばれる社会の実現」というヴィジョンは、世界教会協議会(WCC)を中心とする世界エキュメニカル運動が、1990年代にようやく到達することになるコンセンサスである。そのさらに30年も前に、日本のアカデミー運動が、「正義・平和・いのち」というキーワードを語っていたとすれば、それは驚くべきことであるが、初期のアカデミー運動を担ったのが、竹中正夫氏、荒井俊次氏などの日本が誇るエキュメニストたちであったことを考えるならば、間違いなく最初からその萌芽が存在したに

違いない。1990年2月に、韓国ソウルにおいて、世界のキリスト教史上、画期的な世界会議が開催された。それは、WCCが中心となって招請した、「正義・平和・創造の保全世界会議」(Justice, Peace and the Integrity of Creation: JPIC)である。この会議は、1983年にカナダ、ヴァンクーバーで行われたWCC第6



財団評議員
西原 廉太

正義と平和、そして「いのち」が尊ばれる社会の実現

6回総会において確認され、以降さまざまな形で議論、実践された、キリスト教の被造世界すべてに対する関心の結晶である。このJPIC会議に至るプロセスとは、「いのち」に対する経済的、軍事的、環境的脅威に直面する現代世界において、聖書のメッセージに聴きつつ、正義、平和、そして「いのち」の保全は不可分なものであり、互いに

1990年、ついにキリスト教、エキュメニカル運動は、その宣教方針の主題である「正義と平和」に、新たに「創造(いのち)」を加えるに至ったのである。JPICは、私たち世界のすべてのキリスト者が唱えるべき「頌栄」を採択した。「三位一体論」のエコ・セオロジカル(eco-theological)な理解を背景として、このように謳う。

神に栄光あれ、初めにすべてのものをお造りになり、それを良しとされた方に。御子イエスに栄光あれ、新しき創造の初穂であり、すべてのものの贖い主に。聖霊に栄光あれ、初めに水の面を覆われた方に。すべて「いのち」あるものを、あなたの愛で、満たされる方に。

私たちは今、反知性主義と暴力、差別排外主義とCOVID-19の世界的蔓延という危機的時代にあつて、「さあ今、「いのち」を選べ」と招かれる神にいかん徹底してつき従うことが求められている。日本におけるアカデミー運動の使命と責任が尽きることはない。(立教大学教授)

7. 聖書を読む講座は、これまで続けてきた山口里子氏による「新しい聖書の学び」の連続講座に続けて、上林順一郎牧師による連続講座「この時代の中で聖書からのメッセージを読み解く」を実施する。「新しい聖書の学び」は全面 Zoom での開講とし、現在全国から 80 名の参加がある。また「この時代の中で」は、Zoom と対面式の同時並行で実施する。
8. 体験プログラムとして、昨年に引き続き「礼拝の言葉を豊かに」というテーマで、話し方ワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。
9. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2021 年度も各神学校の賛助を得て、第 12 回プログラムを実施する。この神学生交流プログラムの第 1 回から校長として協力して頂いた関田寛雄先生を囲む元参加者によるリユニオンも計画している。第 10 回までの参加者約 150 名（その多くは現在各地の教会に仕える牧師・伝道者として働いている）に呼びかける。

神学生交流プログラム	第 12 回神学生交流プログラム 校長 神田健次 (関西学院大学名誉教授)、講師 廣石望 (立教大学教授) 開催場所は未定	2022年3月8日~10日
神学生交流プログラム・リユニオン	第 1 回~第 10 回の参加者に呼びかけ 開催場所は未定	2022年3月7~8日

III 関西セミナーハウス活動センター2021年度事業計画

昨年度は、コロナウイルス感染症の広がりのため、関西セミナーハウス活動センターが長年特色としてきた、参加者が全員ハウスに集まり、そこで発題講演を聞き、それを巡って時間をかけて話し合いを深めるプログラムを開催することが困難になった。

そこで多くの場合、発題講演者と参加者をオンラインでつなぎ、Zoom を用いて、発題講演を聞き、その後の話し合いを展開する方法をとって、プログラムを開催した。この方式により、講師と参加者が、顔と顔を合わせて話し合いをする豊かさは損なわれたが、代わりに、関西セミナーハウス近隣の人だけでなく、北海道や、アメリカなどの遠隔の地にいる人も、講師や参加者としてプログラムに参加することができた。

2021 年度も、当分の間コロナ感染症の広がりが続くと思われ、このため、当活動センターのプログラムも Zoom による方式を採用することになる。Zoom に慣れていない人には、技術的援助を行う。自分の場所で Zoom に参加できない人は、関西セミナーハウスで Zoom に参加できるようにする。

1. 修学院フォーラム「社会」においては、Zoom の特徴を生かして、関東活動センターが主催する「日本キリスト教史を読む」I (明治篇) を共催する。それと並行して、独自に、「アメリカの政治的動向」、「原発問題」、「人種的ソーシャルディスタンス」などについて考える。
2. 修学院フォーラム「福祉」においては、パンデミックの原因となる「気候変動の意味」と、パンデミックによりもたらされる、「子ども、女性、若者の貧困」について考える。
3. 修学院フォーラム「いのち」においては、パンデミックにより傷ついている人が多いこの時に、「音楽による看取り」と「ヒップホップ音楽による癒し」について考える。
4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。

フォーラム事業		
関東フォーラム 今日の課題 I	共同研究	「コロナ後の教会への希望」荒瀬牧彦 (日本聖書神学校教授) 2021年度 4回 Zoom にて研究会開催
関東フォーラム 今日の課題 II		「パンデミックに抗して」 講師 未定 未定
関東フォーラム 宗教対話 I	全8回	連続講座「日本キリスト教史を読む」(明治篇 アンコール開講) 講師 戒能信生 (早稲田奉仕園、関西セミナーハウス活動センターと共催) Zoom による全国向け講座 第1回 5月13日(木) 第2回 6月10日(木) 第3回 7月8日(木) 第4回 8月12日(木) 第5回 9月9日(木) 第6回 10月14日(木) 第7回 11月11日(木) 第8回 12月9日(木)
関東フォーラム 宗教対話 II	全1回	柏木義円公開講演会「柏木義円の終末論」 講師 若井和生 (柏木義円研究会との共催) 11月15日 (月)
関東フォーラム 宗教対話 III	全6回	「悪と苦難の問題を考える」 講師 本田峰子 (二松学舎大学教授) 第5回 4月15日(木) 第6回 5月20日(木)
関東フォーラム 宗教対話 IV	全5回	「教会とLGBT」 講師 中村吉基 (早稲田奉仕園と共催) 第1回 1月13日(水) 第2回 2月10日(水) 第3回 3月10日(水) 第4回 4月7日(水) 第5回 5月12日(水)
聖書を読む講座 I	全6回	「この時代の中で聖書からのメッセージを読み解く」III 講師 上林順一郎 (早稲田奉仕園と共催) 第1回 5月26日(水) 第2回 6月23日(水) 第3回 7月28日(水) 第4回 9月22日(水) 第5回 10月27日(水) 第6回 11月24日(水)
聖書を読む講座 II	全10回	新しい聖書の学び「マルコ福音書をじっくり読む」IV 講師 山口里子 (早稲田奉仕園と共催) 第1回 4月13日(火) 第2回 5月11日(火) 第3回 6月8日(火) 第4回 7月13日(火) 第5回 9月14日(火) 第6回 10月12日(火) 第7回 11月9日(火) 第8回 12月14日(火) 第9回 1月11日(火) 第10回 2月8日(火)
話し方ワークショップ	全10回	「礼拝の言葉を豊かに」話し方ワークショップ (ステップ・アップ講座、初心者も可) 講師 友野富美子 第1回 5月18日(火) 第2回 6月15日(火) 第3回 7月20日(火) 第4回 9月21日(火) 第5回 10月19日(火) 第6回 11月16日(火) 第7回 12月21日(火) 第8回 1月18日(火) 第9回 2月15日(火) 第10回 3月15日(火)

フォーラム事業		
修学院フォーラム 社会	全8回	日本キリスト教史を読む！(明治篇) 講師 戒能信生 (日本基督教団千代田教会牧師) 関東活動センター、早稲田奉仕園と共催 第1回 5月13日(木) 第2回 6月10日(木) 第3回 7月8日(木) 第4回 8月12日(木) 第5回 9月9日(木) 第6回 10月14日(木) 第7回 11月11日(木) 第8回 12月9日(木)
	第2回	分断と陰謀論のアメリカ——ポスト・トランプの時代に 講師 森本 あんり(国際基督教大学教授) 5月22日 (土)
	第3回	シュリンクするまちからリポーンするまちへ 講師 高田清太郎(新潟の町おこし建築家) 7月24日 (土)
	第4回	エネルギーを考える第10回 パンデミックと脱原発(仮) 講師 交渉中 2022年1月10日(月、祝)
	第5回	人種的「ソーシャルディスタンス」への挑戦——奥村多喜衛の事例 講師 吉田 亮(同志社大学社会学部教授) 2022年3月12日(土)(仮)

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

2021年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2021年度の実業計画に関する基本方針を次の通り定める。

I 事業計画基本方針

当財団は、ウイズコロナ時代といわれる2021年度においても、以下の基本方針を掲げ、コロナ対策に万全を期して事業を推進する。

1. 財団事業の展開

- 1) 定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話(はなしあい)を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。
- 2) コロナ禍における財団事業の展開においては、①関西セミナーハウスの事業を2021年4月から2022年3月まで臨時休業とする。②アカデミー運動における事業活動は、3密対策を徹底し、研修・セミナーは極力リモートでの会議実施を目指す。
- 3) 関西セミナーハウス施設の有効活用策を検討するため、プロジェクトチーム(施設再生プロジェクト)を立ち上げる。当プロジェクトチームは、事業再開を含めた施設の具体的展開策を具申する。

なお、当プロジェクトチームは代表理事直轄とし、本部事務局が取りまとめる。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 各活動センターのプログラムは、それぞれにおける収支バランスをとることを原則とする。寄付金も含めて、活動センターとしての収支バランスを目指す。
- ③ 参加者同士の対話中心のプログラム実施にあたっては、オンライン会議のメディア等を積極的に活用して、新規プログラムの開発に取り組む。
- ④ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。
- ⑤ 得られた成果を機関紙による広報を超え、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。
- ⑥ キリスト教精神に基づくものではあるが、未だに社会の共通認識にと至っていない幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 関西セミナーハウスの事業は、2021年4月から2022年3月まで臨時休業とする。
- ② 関西セミナーハウスの臨時休業中であっても、施設活用については、新規プロジェクトチームからの提案を含め種々検討を行い、コロナの状況を含めた内外の諸事情の変更により公益目的に資する事業(新規事業等)に実現可能性が見いだされた場合は、理事会の承認のもとで、事業等を再開する。
- ③ アカデミー活動の安定的継続を支援するため、宿泊施設・会場を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する方策を鋭意検討する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

- ① 関西セミナーハウスの事業は、2021年4月から2022年3月まで臨時休業とする。
- ② 関西セミナーハウスの臨時休業中であっても、施設活用については、新規プロジェクトチームからの提案を含め種々検討を行い、コロナの状況を含めた内外の諸事情の変更により事業の再開や新規事業などに実現可能性が見いだされた場合は、理事会の承認のもとで、事業等を再開する。
- ③ 事業再開を検討する際は、一般利用者、企業等に対して施設の利用を促進し、その収益の一部を公益活動に資する方策を組み込む。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を当該施設の補修、維持、向上等及び公益活動への貢献に資する。

3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の拡充を図る。

II 関東活動センター2021年度事業計画

2021年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. Covid-19感染拡大の中で、今必要とされる課題についての講座や企画に絞って事業展開をする。
2. 「今日的課題」Iとして、Covid-19感染拡大の中での教会の在り方について共同研究をし、その成果を書籍にして問う。
3. 「宗教対話」Iとして、連続講座「日本キリスト教史を読む 第一期(明治篇)」のアンコール開講を全面リモート(Zoom)で実施する。前回聞き逃した受講者だけでなく、リモートでの開講によって関西セミナーハウス活動センターの会員、さらに全国での受講者を募る。
4. 「宗教対話」IIは、これまでに引き続き柏木義円研究会との共催で、柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を実施する。
5. 「宗教対話」IIIの「悪と苦難の問題」は、昨年度Covid-19感染拡大のため、実施を延期したため、2021年度に一部ずれ込んだもの。
6. 「宗教対話」IVは、性的マイノリティーの問題を教会の課題として取り上げる新規プログラムである。LGBTの当事者だけでなく、教会や信徒の理解を得るために企画された。但し、問題の深刻さを考慮し、リモートではなく、対面式の連続講座とする。

修学院フォーラム 福祉	第1回	気候変動とキリスト教—人新世と宗教 講師 福嶋 揚 (神学博士)	9月11日 (土)
	第2回	子ども・女性・若者の「貧困」(仮) 講師 交渉中 京都 YWCAと共催	10月 (仮)
修学院フォーラム いのち	第1回	音楽 (ハーブ) による看取りのケア 講師 キャロル・ソック (アメリカ福音ルー テル教会宣教師)	4月10日 (土)
	第2回	ヒップホップに宿るアナムネーシスの力 講師 山下社起(日本基督教団阿倍野教会牧師)	6月12日 (土)
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー 「SDG s (持続可能な開発目標) を自分 ごとに」 共催 京都市国際交流協会	6月20日 (日)
	第2回	コロナ禍でくらす外国人技能実習生の今 講師 斉藤善久 (神戸大学大学院国際協 力研究科准教授)	7月11日 (日)
	第3回	日本と韓国の過去・現在・未来〜共に生 きる隣人として 講師 太田修 (同志社大学グローバル・ スタディーズ研究科教授)	9月12日 (日)
	第4回	私たちは気候変動を食い止めることができ るのか? 講師 伊与田昌慶 (気候ネットワーク主任研 究員)	10月10日 (日)
	第5回	持続可能な食と農をめざして〜食料主権 をとりもどす 講師 西川芳昭 (龍谷大学経済学部教授)	11月14日 (日)
	第6回	誰のための平和か〜中東で起きているこ とを理解する 講師 末近浩太 (立命館大学国際関係学 部教授)	12月12日 (日)

IV 関西セミナーハウス2021年度事業計画

理事会決議により関西セミナーハウス事業が2021年4月から2022年3月まで臨時休業になる中で、2021年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りとする。

1. 運営方針

- 1) 関西セミナーハウスの臨時休業中であっても、施設活用については、新規プロジェクトチームからの提案を含め種々検討を行い、コロナの状況を含めた内外の諸事情の変更により事業の再開や新規事業などに実現可能性が見いだされた場合は、理事会の承認のもとで、事業等を再開する。
- 2) 関西セミナーハウス施設の有効活用策を検討するため、プロジェクトチーム(施設再生プロジェクト)を立ち上げる。当プロジェクトチームは、事業再開を含めた施設の具体的展開策を上申する。
- 3) 臨時休業中の施設維持管理費、人件費等の諸経費は本部事務局の管理下に置くが、その発生を最小限に留める。
- 4) 上述の支出削減努力にもかかわらず、資金不足の発生が予測される場合、理事会の承認のもと財団の運用基金を必要額だけ取り崩す。

2. 予算編成作業実施にあたっての留意点

関西セミナーハウスについては、会計単位収支計算書は白紙とし、別に施設維持管理計算書を作成する。

(以上)

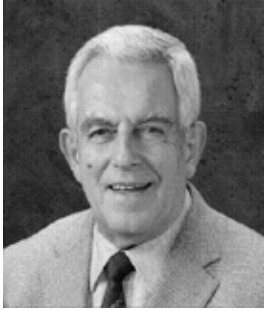
2021年度収支予算書 (損益計算方式)

(2021年4月1日～2022年3月31日まで)

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	[240]	[1,200]	[△ 960]	
特定資産運用益	[180]	[520]	[△ 340]	
受取会費	[730,000]	[1,040,000]	[△ 310,000]	
事業収益	[23,637,000]	[134,837,525]	[△ 111,200,525]	
受取寄付金	[2,500,000]	[3,820,000]	[△ 1,320,000]	
雑収	[19,920]	[120,330]	[△ 100,410]	
経常収益計	26,887,340	139,819,575	△ 112,932,235	
(2) 経常費用				
事業費	[47,759,412]	[133,016,257]	[△ 85,256,845]	
管理費	[3,377,000]	[3,644,808]	[△ 267,808]	
経常費用計	51,136,412	136,661,065	△ 85,524,653	
当期経常増減額	△ 24,249,072	3,158,510	△ 27,407,582	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 24,249,072	3,158,510	△ 27,407,582	



〈追悼〉
シュペネマン・クラウス先生
「お別れ礼拝」メッセージより

2021年2月15日(月)
日本基督教団宇治教会

「土に眠るいのち」
榎本榮次

はつきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うがこの世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。

ヨハネによる福音書12章24、25節

シュペネマン・クラウス先生は、去る2月3日午後1時、天に召されました。お亡くなりになる3日前に、告別

式は質素にし、説教を榎本牧師に依頼するようにと指示されたそうですので、恐れながら御用を勤めさせていただきました。

シュペネマン・クラウス先生は、1937年 ドイツ

ベルリンで、父・フリッツ・シュペネマンさん、母・シャルロッテさんの五人兄弟の二男としてお生まれになりました。

お父様は農学博士の高官で各地を転々とし、シュペネマン少年は、お父様と離れた旧東ドイツで終戦を迎えました。そのため東から西ドイツに亡命しなければなりません。小学生だったシュペネマン少年はお母様に手を引かれて東西ドイツの国境となつて川を渡るうとしました。そのとき、東ドイツの警備兵に見つかってしまったのです。母さんが必死になつて西ドイツにいる家族のことを話すと老警備兵は「急いで

行きなさい。20分後に来る若い警備兵は、とても厳しい人だから」と言つて見逃してくれたそうです。

西ドイツに移つてから小中学生時代は、お爺さんの何百本も木がある果樹園の世話や家畜の世話などをしながら過ごされました。彼は今も城陽のご自宅に大きな広い果樹園を持つておられます。土と木に親しむ心は生涯変わりませんでした。

彼は伝統的なドイツの家庭で、厳しいしつけのもと、優しい愛情に満ちた家庭で育ちました。

ある時こんな話をしてくださいました。少年時代、学期末に成績表をもらつて帰りまらわなければなりません。あまりよくない成績を父親に見せられなくて、シュペネマン少年は父親のサインをまねて先生に返しました。先生はそのサインを疑つて、お父さんのところに行き、「このサインはお父様のものですか」と尋ねました。するとお父さんは「はい。わたしのサインです」とうその答えをなされたそうです。その時、彼は「愛

する者のために自ら罪人となる」という神の愛を知ったそうです。見えることだけではなく、その中にある深い意味を見ることを学んだのでしょう。このようにして、シュペネマン先生の「はにかみ屋」で、あまりしゃべらない人柄でありながら、神を信じ、人を信頼し、土を愛する基礎的人格が育てられました。

戦後、スイスと西ドイツのキリスト教会において、クリスチャンアカデミー運動が

カール・バルトや、エミール・ブルンナー、アルフレッド・シュミット博士らの指導で起こりました。それは戦争中の深い反省に立つて、「教会が社会に奉仕する姿」として起こりました。それは教会のためではなく、社会に奉仕するためでした。教会に人を集めるためではなく、教会が外に出てゆくことを旨とし、話し合いを基礎とします。WCC世界教会協議会の運動となつた教会一致運動であるエキュメニカルムーブメントと同じ流れです。1950年代から日本でもE・ブルンナーの来日を機にアカデミー運動が起きていました。

1961年、日本クリスチャンアカデミーが設立され、1963年に大磯アカデミーハウスが建てられました。続いて1967年 京都においても関西セミナーハウスが建設されました。また、北海道の白老にもセミナーハウスが建てられました。何よりも話し合いの場が必要だということ、各地にできたのです。当時神学生であった私たちも大いに影響を受けました。

時を同じくして、若いシュペネマン先生はその運動に大きな希望と共感を抱き、一生そのために捧げようと思われました。シュペネマン先生は、ハイデルベルグ大学で、神学、哲学、社会倫理学を学び、「エキュメニカル運動とロシアの共産主義」という論文で博士号をとりました。

その後一年間、米国のシカゴ大学に留学していた時に、国際基督教大学の学びを終えて日本から同じ大学に留学していた大島偕美さんと、劇的な出会いがありました。さまざまな障害を乗り越えて課題を抱えながら国際結婚をされました。お二人はドイツで真

さん、望さん、和人さん三人のお子様をもうけられました。

当時、日本におけるアカデミー運動のために尽力されていた同志社大学の竹中正夫教授がこの青年に目をつけ、日本に招いたのでした。それに応えて1970年、シュペネマン一家5人は日本に移住して来られました。先生は、アカデミー運動と共に同志社大学文学部と神学部で教授としての働きをされ、多くの学徒に影響を与えました。

アカデミー運動は、社会に對する教会の従来の在り方への深い反省から起きました。その中心的考えは、「はなしあい」ターグングです。対立する者同士が、どちらかを説得してねじ伏せるのではなく、弁証法的に新しい関係が生む社会を作り出さことを目的とします。関西セミナーハウスはその場として作られました。

シュペネマンは言っています。アカデミー運動は、キリスト教の社会に對する奉仕の姿のひとつです。アカデミー運動は教会のた

めにする奉仕ではありません。アカデミー運動は、個人的な教養をおしえる教育施設ではありません。

話し合いです。民主的な討論のモデルでなければならぬ。偉い先生の話聞いて教えを乞うのではない。参加者が主体となり、キリスト教倫理を基本にする正義、平和、命を目標に置く。こうしてアカデミー運動は、社会と教会の間に立つて、「はなしあい」の場を提供してきたし、しようとなりました。

共に学び、共に食し、共に風呂に入り、話し合い、労し合う。そこには人間の平等、自由、連帯が必要です。話し合いは、方法ではなく、場です。逃げ出さたくなく、でも逃げないで話し合う。そこに生まれるはなしあいです。その場を提供するのがセミナーハウスです。ホテルではありません。彼は、セミナーハウスが商業化してうまくやろうとすることにことごとく邪魔をしてきました。激しい対立もあり、私など時には「憎つくきシュペネマン」な

どと思ったことです。彼の親しくした人は偉い学者というよりも、街の小父さんや、鉄工所の職人、お百姓さん、植木屋さんなどでした。

日本におけるアカデミー運動は、財界、ドイツ、スイス、などの外からの大きな援助で誕生しました。近年バブル崩壊とともにその援助がなくなると、木が枯れるように後退します。大磯が閉じられ、その活動を継承した箱根の施設が売却され、北海道の白老アカデミーハウスもなくなりました。残るは関西セミナーハウスだけです。

その関西セミナーハウスも今コロナ禍の波で休館を余儀なくされています。このままでは閉じざるを得ないのではないかというところに来ています。このまま無くなってしまうのでしょうか。キリスト教はここから不思議な復活の命に出会うのではないのでしょうか。不思議のない宗教は命がない偶像です。

主イエスは、「一粒の麦が死ななければただ一粒のままである。だが死ねば多くの実を結ぶ。」と言われました。命は土の中にあるのです。見

える花や実ではない。シュペネマン先生は一粒の麦となって日本の地に落ち亡くなられたのです。その土の中に命がある。それに心を馳せたいと思います。

先日、ご長男のシュペネマン・真さんに教えてもらいました。彼は、ドイツで多くの企業や組織のコンサルタントをされています。木の話です。それによると、

木は葉が茂り、花が咲き、収穫の実がなる。皆それを期待し、そこに集まる。それを象形して木という字を書く。ところがその木は枯れるときが来る。しかし、木は見えるところだけではない。枯れた木の下に根が広がっている。そこに命がある。地下に根が広がって木という字になる。コロナだ、不況だ。人がいないと、やめるしかない、もう木の収穫は望めないと人は去っていく。

しかし木は生きている。土の中に根が張っている。それが木という字だ。目に見えないところに人の複雑なつながりが生きている。それが木だということです。お金に命があるのではない。地下に広がる

命、人のつながりに命があるのです。

シュペネマンは、最後までセミナーハウスのことを考えていました。彼は一粒の麦となって地に落ち死にました。この命を私たちは引き継がなければなりません。

最後に、シュペネマン先生は、借美さんのことを心配されていました。不自由な中で最後のラブレターを書かれました。その一部を紹介します。愛するモミ

眼鏡がなく、また、希望を失った今、何か書くことは非常に難しい。私は今、こんなに早く君のもとを去ろうとしている。そのことだけが一番気がかりだ。

私はわたしの生涯を満喫し、楽しんできたと思っっている。それがもし、逆になったら、どうだっただろうか？

自分がいなくなったら、誰が君のことを心配して、誰が絵を描くことや、そのほかいろんなことをできるようにしてくれるだろうか。それが一番心配な懸念材料だ

ごめんなさい
ああ眼鏡が欲しい…
1月26日 武田病院にて
以前にお二人で礼拝してい
る時のことです。

偕美さんが「聖霊って分か
らないわ」と言うとシユペ
マン先生が「窓の外を見てご
らん。風が吹いているだろう。
木の葉が揺れているだろう。
あれが聖霊だよ。僕がいなく
なっても窓の外に風が吹いて
いる。そこに私がいるんだよ。
そう思いなさい」と言われた
そうです。

シユペネマン先生は、ご家
族のことを誰よりも愛してお
られました。ドイツから和人
さんに続いて、望さんがかけ
つけて来られました。真さん
はコロナで足止めされ、お亡
くなりになる1時間前に到着
されました。この時まで待っ
ておられたのでしょうか。シユ
ペネマン先生は、偕美夫人と
3人のお子様にもまれて静か
にお眠りになりました。6人
のお孫さんはドイツで心を痛
めておられます。

今日は雨の日ですが、温か
い春一番が吹くような気候で
す。土の中、風の中にシユペ

ネマン先生の御命が眠ってい
ます。わたしたちはそのお命
を引き受けねばなりません。

春一番 いのちが眠る 土
の中

祈り

天の父なる神様、敬愛する
シユペネマン・クラウス先生
が御許に召されました。あな
たの御心は計り知れず、私た
ちは悲しみと戸惑いの中に立
たされています。しかし、主
のなさることは、その時に
適って美しいのです。先生は
今、みもとで、平安を得てお
られることでしょうか。それを
信じ、主に委ね、主を賛美し
ます。

先生は、日本における宣教
のために命をささげられまし
た。私たちはその命を引き継
ぎ、御心が地になるように務
めますから、助けてください。
ご遺族の上に主の慰めがあ
りますように。

主イエス・キリストの名に
よって祈ります。アーメン
(関西運営委員、関西セミナー
ハウス活動センター所長代行)

関東活動センター

●2020年度 聖書を読む講座I(共催 早稲田奉仕園)
「上林順一郎牧師と一緒に聖書を読もう」
—この時代の中で聖書からメッセージを読み解く— 第2期

『創世記(原初史)から読み解く現代
神、自然、人間をキーワードに』

講師 日本キリスト教団引退教師 上林 順一郎さん
2020年9月〜2021年3月、第4水曜
日本キリスト教会館1階16号室、T03によるオンライン併用

上林先生聖書講座に参加して

東郷晴代

この度の講座はズームでも
参加できるとありましたが、
そういうことは不得手なので
コロナ渦中ですが、会場へ通
うことにしました。上林先生

の講座はこれまでも何回か

参加したことがあるのです
が、今回は私にとつて、今
までのと違って一段とレベル
が高いと感じました。神学校
の教室に迷いこんだのかと思
う時もあります。

講座はまず「旧約聖書」を
学ぶ意義(旧約聖書は神の行
為を中心とする信仰告白から
成立しており、新約聖書の理
解、キリスト教信仰理解のた
めに重要)を学び、創世記の
学びと入りました。先生はい

つも10枚以上のレジメを用
意してくださり、そのご準備
にかかられる時間を思うと、
頭の悪い生徒で悪いなと思っ
ています。

「創世記」の聖句一句一句
丁寧に学ぶのですが、一句に
ついて複数の訳文を提示して

くださいます。まず「はじめ
に」は神の創造による天地と
歴史の「はじめ」の宣言であ
り、また創造された天地の「お
わり」の予告ともいえるかと
び、黙示録の言葉に繋がると
気づかされます。ひとつひとつ
の言葉も、国語辞典の意味
より、深い意味を教わります。
例えば「混沌」「霊」「言葉」
「光」「分ける」「呼ぶ」「集ま
る」「生えさせる」「治める」
など、そして「日の創造」「時
の創造」など。特に「神は言
われた」の深い意味―創造の
出来事は「神は言われた」と
いう言葉によつて行われている―
「言葉による創造」を創
世記は語っている、さらに「聖
書を学ぶ」ということは過去
を学びながら、現在が未来へ
と入り込んでいく先端に私た
ちを立たしめると。

先生は私たちの知るところ
の「使徒信条」にもふれ、バ
ピロン捕囚時代のイスラエル
の人々の祈りのような信仰で
唱えているのだからかと思わ
れる。また今コロナ渦中に
あつて、日本の教会が以前の
ように礼拝を守れない状態に
陥っているが、これからの教
(次ページに続く)



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2021年度話し方ワークショップ**

「礼拝の言葉を豊かに」(ステップアップ講座)

講師：友野 富美子さん(日本キリスト教団吉祥寺教会牧師)

日時：①5月18日、②6月15日
火曜14:00～16:00

会場：日本基督教団巣鴨ときわ教会
参加費：1回1,200円(全10回)

■**2021年度 聖書を読む講座 I**

(共催：早稲田奉仕園)

「上林順一郎牧師と一緒に聖書を読もう—この時代の中で聖書からメッセージを読み解く」『創世記(原初史)から読み解く現代第3期～神、自然、人間をキーワードに』

講師：上林 順一郎さん(日本キリスト教団引退教師)

日時：5月～11月、第4水曜
14:00～16:00

方法：会場(早稲田奉仕園セミナーハウス)およびZoomによるオンライン講座

参加費：全6回6,000円(学生3,000円)

■**2021年度 聖書を読む講座 II**

(共催：早稲田奉仕園)

「マルコ福音書をジックリと読む」第4期

講師：山口 里子さん(聖書学者)
日時：4月～2022年2月、第2火曜
18:30～20:00

参加費：全10回8,000円(学生4,000円)

方法：Zoomによるオンライン講座

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198

E-mail: info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115

E-mail: info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117

E-mail: office@academy-kansai.org

◆**東・西活動センター・早稲田奉仕園共催**

■**2021年度関東フォーラム 宗教対話 I**

/修学院フォーラム「社会」I
〈連続講座〉アンコール開講

「日本キリスト教史を読む」I(明治篇)

講師：戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

日時：5月～12月、第2木曜
14:00～16:00

参加費：全8回6,000円

方法：Zoomによるオンライン講座

◆**関西セミナーハウス活動センター**

いずれもオンライン(Zoom)と会場(関西セミナーハウス別館、10名まで)併用

■**2021年度修学院フォーラム「いのち」**

第1回「音楽(ハーブ)による看取りのケア」

講師：キャロル・サックさん(アメリカ福音ルーテル教会宣教師)

日時：4月10日(土)13:30～15:50

参加費：1,000円(学生500円)

第2回「ヒップホップに宿るアナムネシス」

講師：山下 壮起さん(日本基督教団阿倍野教会牧師)

日時：6月12日(土)13:30～15:30
参加費：1,000円(学生500円)

(前ページの続き)
会の在り方、信徒の生き方について問われる。考えなきやあいけないことは多々あるのですが、時折先生がおっしゃる余談や雑談ばかり覚えていて(すみません)でも続く講座もしつかり聞きたいと思います。
(市川三本松教会員)

■**2021年度修学院フォーラム「社会」**

第2回「分断と陰謀論のアメリカ—ポスト・トランプの時代に」

講師：森本 あんりさん(国際基督教大学教授)

日時：5月22日(土)13:30～15:50
参加費：1,000円(学生500円)

■**2021年度開発教育セミナー**

第1回「開発教育入門セミナー～SDGs(持続可能な開発目標)を自分ごとに～」

日時：2021年6月20日(日)
10:00～16:00

会場：京都市国際交流会館

参加費：1,000円

共催：京都市国際交流協会

賛助会費・寄付金報告

2021年1月1日～2月28日

(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

賛助会費

原 牧人 10,000
大石 貞子 3,000
坂下 道朗 5,000
西間木 公孝 5,000

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

本多 峰子 3,000
林 秀雄 3,000
藤 知佳 5,000
神保 正男 10,000
日本初任教団経堂緑丘教会 10,000
市川三本松教会 2,000
日本基督教団千代田教会 10,000
日本基督教団浦安教会 5,000
鹿児島加治屋町教会 5,000
上林 順一郎 10,000
北原 和夫・恵美 3,000
日本基督教団 原宿教会 10,000
日本基督教団ひばりが丘教会 5,000
金光 順子 1,000
佐瀬 萬亀 2,000
友野 富美子 3,000
大和 孝明 5,000
松本 誠 5,000
神保 信子 10,000
吉田 豊 30,000

神学生プログラム寄付金

須賀川教会復活の力が購入者一同 5,000
加藤 真規子 3,000
関田 寛雄 5,000
浦上 充 5,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

西岡 裕芳 5,000
村上 みか 10,000
今川 泰彦 5,000
近藤 恵 5,000
日本基督教団西が丘教会 10,000

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

村上 みか 40,000
脇坂 照世 5,000
山添 みどり 3,000
日本基督教団西が丘教会 10,000
吉田 力 10,000
日本基督教団錦林教会・ベスタロッツ保育園 5,000
日本基督教団洛南教会 3,000
今井 奈都子 3,000
日本基督教団世光教会 10,000
徳丸 延子 10,000
柳井 一朗 2,000
藤永 春子 3,000
金山 颯子 2,000
繁永 幸久 2,000

以上感謝をもってご報告申し上げます。